

【ア.過年度の卒業生に対するアンケート調査等】

卒業生アンケート集計結果

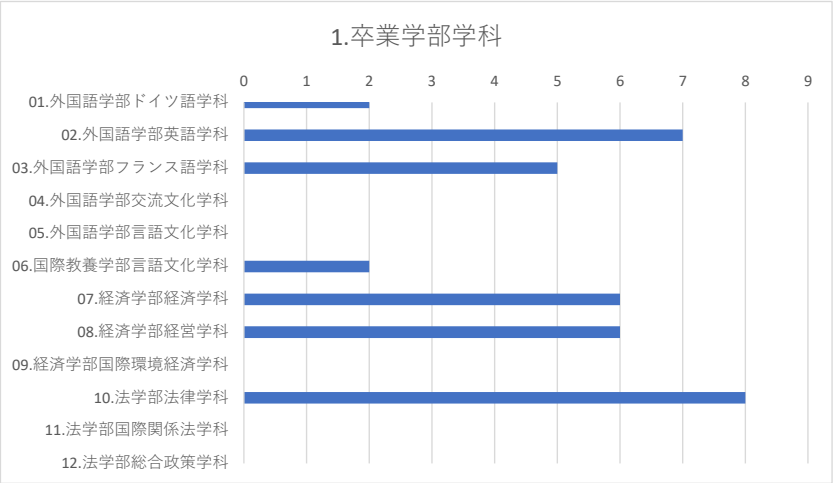
回答日：2024年11月2日～2025年1月31日

対象:卒業生

回答数：36

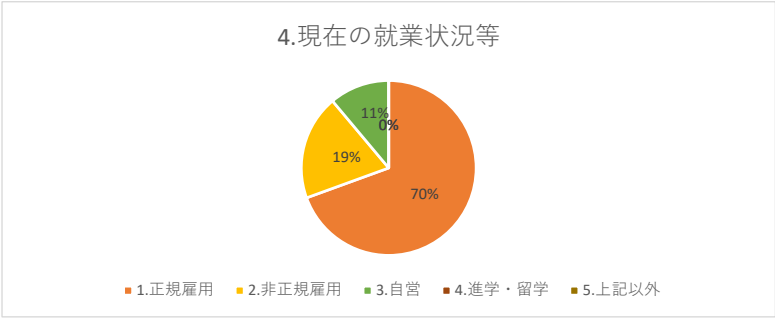
1.卒業学部学科	人数
01.外国語学部ドイツ語学科	2
02.外国語学部英語学科	7
03.外国語学部フランス語学科	5
04.外国語学部交流文化学科	0
05.外国語学部言語文化学科	0
06.国際教養学部言語文化学科	2
07.経済学部経済学科	6
08.経済学部経営学科	6
09.経済学部国際環境経済学科	0
10.法学部法律学科	8
11.法学部国際関係法学科	0
12.法学部総合政策学科	0
総計	36

2.卒業年	2024年以前
3.卒業月	3月および9月



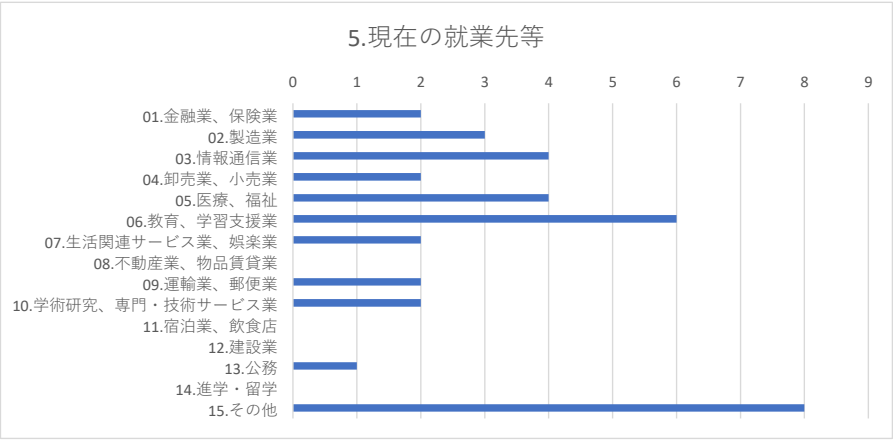
- 4.現在の就職状況等
- 1.正規雇用
- 2.非正規雇用
- 3.自営
- 4.進学・留学
- 5.上記以外
- 総計

25
7
4
0
0
36



- 5.現在の就職先等
- 01.金融業、保険業
- 02.製造業
- 03.情報通信業
- 04.卸売業、小売業
- 05.医療、福祉
- 06.教育、学習支援業
- 07.生活関連サービス業、娯楽業
- 08.不動産業、物品賃貸業
- 09.運輸業、郵便業
- 10.学術研究、専門・技術サービス業
- 11.宿泊業、飲食店
- 12.建設業
- 13.公務
- 14.進学・留学
- 15.その他
- 総計

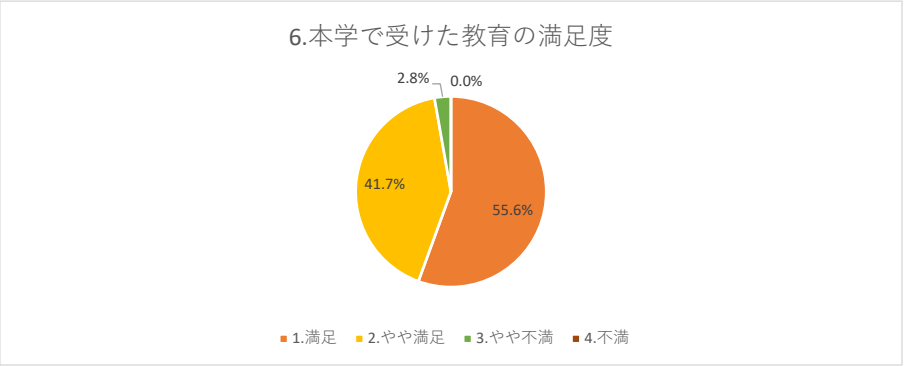
2
3
4
2
4
6
2
0
2
2
0
0
1
0
72
36



6.本学で受けた教育の満足度

- 1.満足
- 2.やや満足
- 3.やや不満
- 4.不満
- 総計

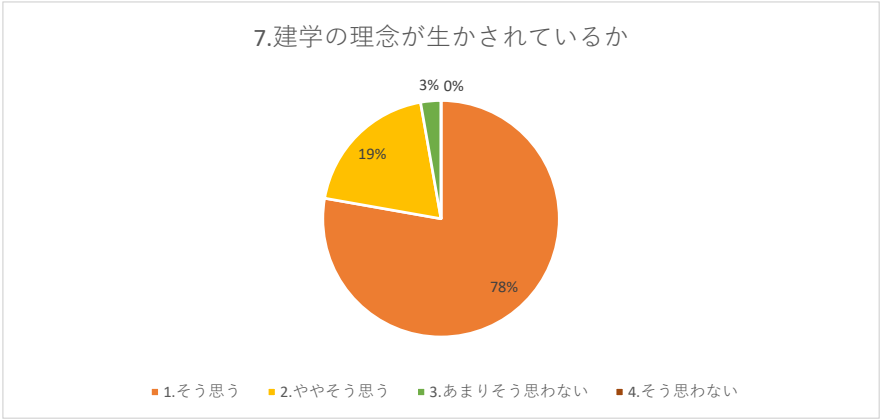
20
15
1
0
36



7.本学の建学の理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」について、これまでの人生を振り返ってみて、この考え方や理念が生かされていると思いますか？

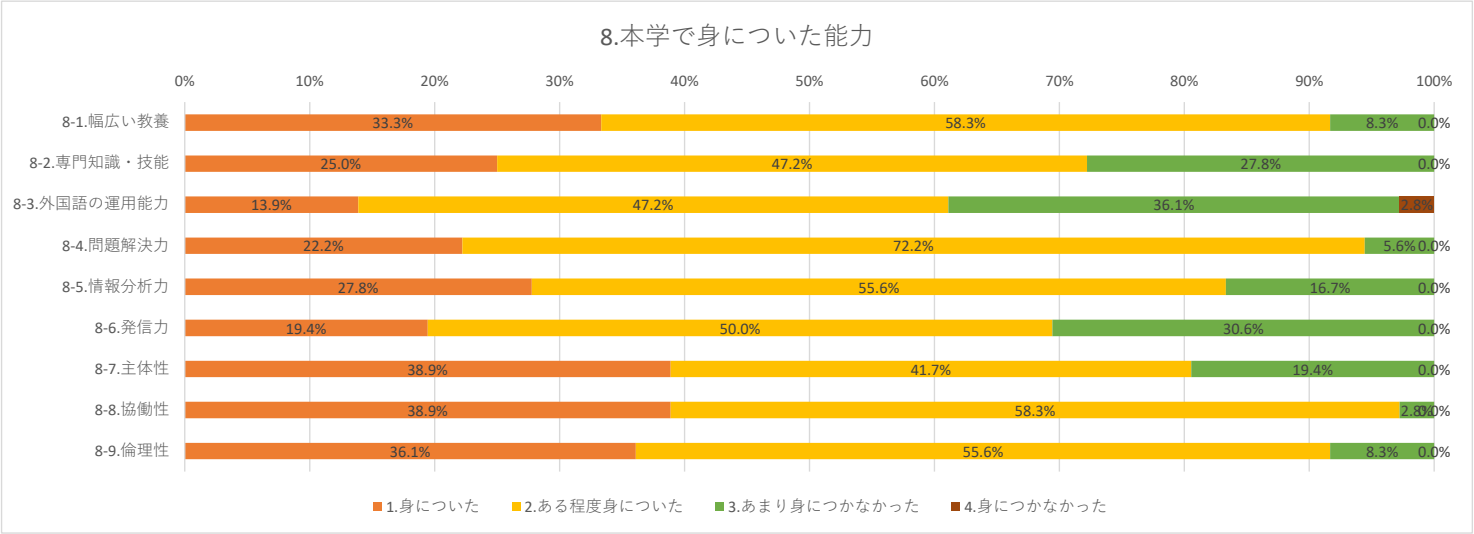
- 1.そう思う
- 2.ややそう思う
- 3.あまりそう思わない
- 4.そう思わない
- 総計

28
7
1
0
36



8.次の能力（8.1～8.9）について、本学で学んだことにより身についたと思いますか？

	1.身についた	2.ある程度身についた	3.あまり身につかなかった	4.身につかなかった
8-1.幅広い教養	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%
8-2.専門知識・技能	25.0%	47.2%	27.8%	0.0%
8-3.外国語の運用能力	13.9%	47.2%	36.1%	2.8%
8-4.問題解決力	22.2%	72.2%	5.6%	0.0%
8-5.情報分析力	27.8%	55.6%	16.7%	0.0%
8-6.発信力	19.4%	50.0%	30.6%	0.0%
8-7.主体性	38.9%	41.7%	19.4%	0.0%
8-8.協働性	38.9%	58.3%	2.8%	0.0%
8-9.倫理性	36.1%	55.6%	8.3%	0.0%



9.大学の教育活動、キャリア支援についてご意見がありましたらご記入ください。

在学中にジェンダーの不平等を感じたことはあまりありませんが、社会に出てからキャリア形成、ライブイベントの場面でその問題に直面してきました。現在では多くの企業がそれに取り組み始め、企業に勤める人の意識は徐々に変わってきている一方で、まだまだ個人事業者、専業主婦や学生には自分ごととして捉えられていないように感じます。ジェンダー平等の大切さを学生のうちに教育の一環として学ぶ機会があると良いと思います。
(1)簿記、会社等の経営分析 法学部なので、簿記や経理について、必要性やプラスになることも分からなかった。 (2)法学部補修講座 在学中は司法試験対策講座があったが、本学の実情を考えると司法試験を突破するのは少数のため、多数のニーズを考えるとこちらの方が良い。本学の先生が多忙であれば、講師は弁護士、司法書士、行政書士でも良いと思います。
2013年に卒業してから10年。 大きく変わったのは、オンラインやデジタル機器を用いた作業が増えた事です。 今の現代社会に適応できる環境が大学にも整っているのが望ましいところではあります。設備や施設の充実を切に願うばかりです。
OBやOGと在学生の交流をもっと活発化してもいいと思います。キャリア形成面で、学生の役に立ちたいと思っている卒業生は多くいると思うので。
一般教養や司書課程の授業が一番仕事に役立っている。
語学を活かす分野などでは、目的を持って大学と仕事を選んできたことが明らかな卒業生が多く活躍しており誇りに思います。一方、語学以外のことに目を向けてこなかった後悔の念も、私を含む多くの後輩が感じているので、オンラインツールを含む、社会人向けの気軽な学び直しの場もあると、大学とのつながりを卒業後も深められると思います。
在学中に学んだことはあまり無かった印象です。但し社会に出てから、あの時のあれはこれだったのか！と気づく事がありました。当時は（時代も違い、ネットもそれほど発達していませんでしたが）閉鎖的な大学だったように思います。自身もそのような学生でした。 本日四半世紀ぶりに大学に向かい、素晴らしい大学に進化したと感じました。時間のおかげかもしれません。心の故郷であり続けると思います。
私は卒業後、システムエンジニアとして働き、現在は3社目で医療機関のシステムエンジニアとして勤務しています。在学中は専門的なプログラミングの授業は受けていませんでしたが、英語をある程度読めることが非常に役立ちました。Web上には多くのプログラミング情報が存在しますが、仕様書や技術ドキュメント、記事の多くは英語で記載されており、これを理解できることは大きなアドバンテージになります。また、ある程度の規模の医療機関では専属の情報システム担当を配置することが一般的になりつつあります。獨協大学では医療分野を学ぶ機会はありませんが、医療機関で働くシステムエンジニアにも目を向けていただければと考えています。
専攻した英語は今仕事では活かしていませんが、日常で英文に触れる時に役立っていると思います。専攻外では哲学を受講しましたが、物事を判断する時に一つの方法以外にも他にあるのではないかと考える力がついたと思います。当時はパソコンに関する授業は少なく、抽選で幸運にも受講できましたが、そこでブライントタッチや基礎的な知識を勉強できて役立っています。単純に知識を学ぶだけでなく、その後の人生の考え方の支えになるような勉強ができてありがたいと思っています。
即戦力に期待する能力と、長期的に備えないといけない能力は別物なので、そのあたりをうまくバランスとった教育が必要だと痛感しています。